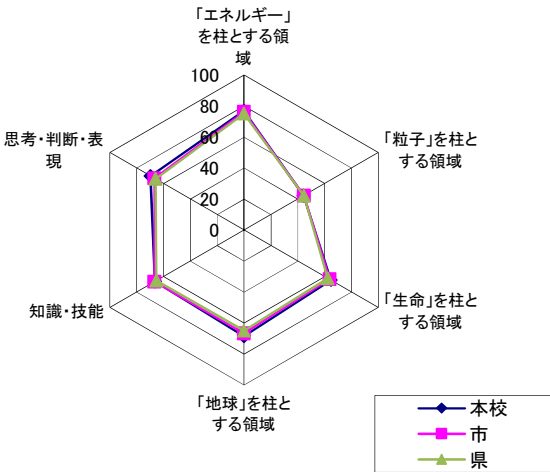


宇都宮市立東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	76.9	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	44.4	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	64.7	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	68.5	66.6	64.9
観点	知識・技能	66.3	66.8	65.4
	思考・判断・表現	69.7	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均を1.8ポイント上回った。 ○ゴムをのばす長さや車の動く距離の関係から、ゴムをのばす適切な長さを推測する問題では、県の平均を11.8ポイント上回っている。 ●車が動いた距離から、送風機の風の強さを推測する問題では、県の平均を11.9ポイント下回っている。また、実験の結果から、電気が流れるつなぎ方を推測する問題では、県の平均を6.2ポイント下回っている。	・単元のはじまりや実験の導入時には、普段の生活や既習事項と関連付けて考えられるように時間をとって予想や仮説を立ててから実験を行うようにしていく。 ・実験では、児童一人一人が関わり、理解が深められるようにしていく。また、ICTを積極的に活用し、電気の流れや音の性質、風のはたらき等を視覚化された教材を多く用いることで、子供たちの理解の一助としていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均を0.1ポイント上回った。 ○姿勢を変えて測った体重が変化するかを、実験の結果をもとに記述する問題では、県の平均を8.3ポイント上回っている。 ●ものの重さから、同じ種類の木でできている積み木を推測できるかどうかの問題では、県の平均を8.1ポイント下回っている。	・目に見えないために、イメージしにくく、理解することが困難であるため、実際に実験を行っていかなく、体感させていく。また、「イメージ図」や「モデル図」を使って考えたり、表したりして、児童が捉えやすいような授業づくりを行っていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均を2.4ポイント上回った。 ○記録カードの内容をもとに、共通点や差異点を見いだすことができるかどうかの問題では、県の平均を17.7ポイント上回っている。 ●正しい草丈の測り方を問う問題では、県の平均を12.9ポイント下回っている。また、ホウセンカの成長について理解しているかどうかを問う問題では、県の平均を9.9ポイント下回っている。	・知識・技能を問う問題での正答率が低いことから、もう一度教科書等で確認する。 ・自然の生き物の観察では、実物を見たり、触ったりする活動が一番望ましいが、ICT等を活用した映像資料等を多く活用していく。その際、日常の経験や体験を想起させながら、様子や成長の違いを確認して観察するようにしていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均を3.6ポイント上回った。 ○かげの動く様子や、日なたと日かげの地面の温度の変化については理解している。 ●観察の記録から、かげと太陽の位置の関係を読み取る問題では、県の平均を5.4ポイント下回っている。	・太陽の動きについては、実際に屋上に行って観察する活動を行う。また、ICT等を活用し、観察だけでなく、映像資料等を交えながら視覚的に学べるようにしていく。